

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 北栄町社会福祉協議会	代表者	谷口いづみ	法人・ 事業所 の特徴	利用者の一人一人の能力を最大限に活かせるように、日々利用者の方とコミュニケーションをとり、職員のミーティングで情報を共有しながら支援している。ひとつの家族だと考え、利用者と職員が互いに助け合うことで、思いやりの心が芽生え落ち着いた場所になってきている。「地域の利用者の方を地域の人で」を基本に支援している。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 「なごみの郷」	管理者	秋山 一恵		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	4人	3人	人	1人	人	人	3人	1人	13人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> 共通理解をするために、実践に向け現場に活かされる研修を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 新規利用者を含め、利用者の情報を職員全員で、共有認識できるよう工夫した。 利用者の生活歴や地域等の環境について、職員間で、十分に共通認識できていなかった（特に地域について、偏りがあった） 	<ul style="list-style-type: none"> 職員全員が自分に厳しく自己評価を行っている。又、それを基にしっかり話し合いを行う事で、次年度に向けての取り組み課題が明確になっている。具体的な改善計画になっている。 自己評価を行う上で、重要なのは目線の統一だと思う。共通理解の為にも、研修を行う事も大切ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的なミーティングや緊急な話し合い、記録ノート（毎日の利用者の状況等を記載したノート）を確認することで、職員全員が、利用者に関しての共通理解ができる。 職員全員が、利用者の情報を効果的に共通認識できるよう工夫する。 事業所の自己評価を、職員全員が同目線で行えるように研修を行う。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場に位置掲示を設置する（駐車場がスムーズに利用できるように改善） 「なごみの郷」利用者、職員で手作り看板を作成する（地域の方に存在を知ってもらえるよう改善） 	<ul style="list-style-type: none"> 職員が中心なり、利用者と一緒に、ボランティアの協力を得ながら、玄関周辺に季節の花の植えかえや管理を行った。 玄関に手作り看板を作るように準備をしていたが、実現は出来なかった。 駐車場が少し離れた場所にある為、初めての方には、余計に分かりづらい。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所に鍵がかかっておらず入りやすい。 道からでも、一目でわかる大きな看板が欲しい（表・裏側とも）。 駐車場が分かりにくい、場所が分かってでもどの位置に置くか分かりにくい。 手作りによる季節感あふれる掲示物、展示物、生け花など生活環境、室内空間に暖かさを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場が分かりやすいように、なごみの郷の玄関に駐車場の地図を貼る。 「なごみの郷」利用者、職員で手作り看板を作り、設置する。 利用者・職員で、ボランティアの協力を得ながら、玄関周辺の花壇等の管理を行い、玄関をいつもきれいに保つ。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に関わりがもてるように地域に出向く機会を作る。 自治会公民館に何か（新聞等）掲示できるように検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自治会長、地域住民（職員等）、役場からの情報提供から、地域の文化祭や地域資料館や美術展、小学校の文化祭等に出向いた。 地域のサロンやオレンジカフェにも、利用者と参加した。 地域のサロンに出向き、地域の人と関わりを持った。 事業所の方から地域の情報を収集することが少なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣自治会や運営推進委員の自治会から、総会資料を頂くことで、年間行事を把握することができ、より参加しやすい体制がとれるのではないかな。 地域の作品展等に参加し、PRしてはどうか。 地域によっては、受け入れが難しい所があるかもしれないが、あきらめず、地道に時間をかけて地域との関係を築き上げていく事も大切。 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣自治会（会長）、運営推進委員や利用者の住んでいる自治会（会長）と連携をとれる体制を作る（年間行事表を頂くなどする） 地域の行事に積極的に参加したり、作品展になごみの郷として出品するなどして、地域との交流を図る。

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者一人一人が地域で暮らす為に、その人にあったサービスを提供できるよう、地域の情報収集を職員一人一人が心かけて行く。 ・「地域の利用者の方を地域の人で」を職員全員で目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に住んでいる職員がたくさんおり、知り得た情報を積極的に提供し、その情報を活かすことができた。 ・地域の行事に、時間の調整ができれば、なるべく、利用者に参加するように努めているが、日曜日等時間の調整ができない時があり、参加できない事も多い。参加出来る地域が偏っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者をなるべく外出させようという計画・実行されており良いと思う。 ・近くの自治会の行事に参加されており良い。 ・利用者の送迎時等に家族の方と連絡をとったり、心配な時は、職員が自宅に出向き対応されている。 ・「地域の利用者の方を地域のひとで」という目標をこれからも目指して欲しい。 ・自治会長や民生児童委員と職員の積極的な連携が必要不可欠である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や自治会等と連携をとりながら、地域の情報を収集し、その人に合ったサービスを調整・提供していく。 ・自治会の行事等の情報を積極的に収集するとともに、自治会等の行事への参加やその他の外出の計画を行い、実行していく。
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の問題点を運営推進会議に議題として提案し一緒に検討できるように取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の状況を会議ごとに報告するとともに、助言や意見を頂き、今後に運営に生かすよう取り組んできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の心配な方や、ヒヤリハットの事例などを会議の時に皆で考えていってはどうか。 ・行事やイベント等に、運営推進委員も参加出来たら、様子や問題点が分かりやすい。 ・外部の者から見た意見も貴重。なごみの課題など、会議でいろいろ話し合っただろうか。又、利用者等の事例検討をしてはどうか。 ・会議に情報をたくさん提供され、わかりやすい反面、2月に1回の会議では、充分には、状況や課題等把握できない。 ・運営推進会議の現人数を維持し、今のいい関係性を維持して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なごみの行事に、運営推進委員や家族等に、来ていただけるように、積極的に声かけしていく。 ・運営推進会議で、なごみの郷の課題や地域の課題の解決に向けて、関係者で支えていく。
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・近所の方と一緒に避難訓練、防災訓練を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と一緒に防災訓練は、出来なかったが、防災時に避難場所への移動について検討し、実際に避難経路を利用者と一緒に車で移動し確認した。 ・水害訓練・防災訓練を利用者と実際に行ない、その反省点を職員等で話し合い、次回につなげるように努力した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の緊急対応は計画と訓練が大切。職員が利用者の状態像に合わせ、代替え訓練をすることで、見えてくるものもある。定期的な防災・水害訓練が必要(決められた回数だけでなく、回数を重ねてほしい。職員だけで、訓練してもいいのではないか) ・訓練に地域(特に近所)の方や、運営推進委員に参加や協力をしてもらうのもいいのではないか。 ・防災訓練に全員が参加できるように検討して欲しい。 ・利用者の方の避難誘導を最重点に考えてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域(特に近所の方)と連携し、防災訓練・水害訓練を行う。 ・防災の知識を高めるような研修や勉強会を行う。

